

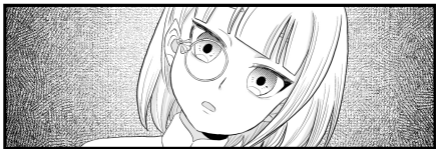
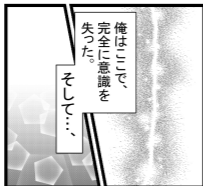
初恋初エッチの子と
もう一度会って、
またエッチしたい…。

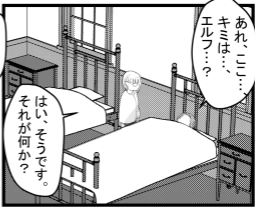
薄れゆく意識の中で、
俺は下半身の事ばかり
考えていた。

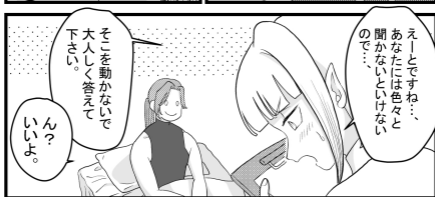
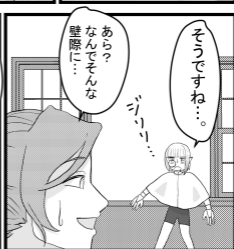
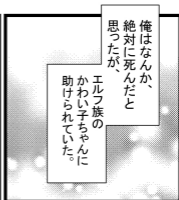
そういえば俺、
どうしてこんな事に
なってるんだっけ…、
思い出せない…。

こんな事を考えてる
場合ではなかった
ような気がする…。

でも…、
でも俺は…、







まず、私はエルフ国の
入国管理局の者です。

あなたには不法入国の
疑いがかかっています。

勿論ご存知かと
思いますが、

え！？
そうなの！？

こゝエルフの国は、
エルフ族以外の入国を
原則禁止しています。

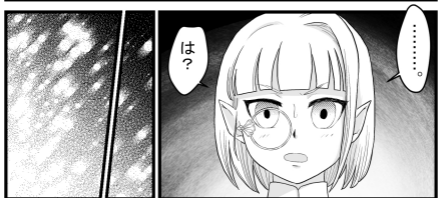
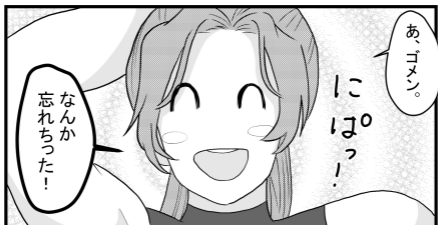
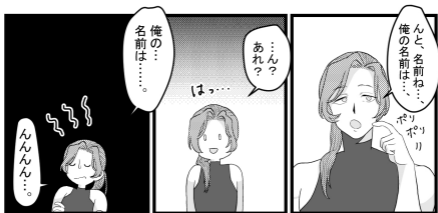
あなたがなぜ、
エルフの森に倒れて
いたのか、

返答次第では、
あなたを罪人として
あなたの母国に引き渡さ
なければなりません。

えっ

とりあえずお名前を
お聞きしても？

ええ…、







で、しばらく
俺はキミン家で
暮らすわけか。

こんなに良く
してもらって
悪いなあ。

仕方ないです…。
あなた本当に何も
覚えていないよう
ですし…。



…俺が言うのも
おかしいけど…

こんな怪しい男の
話を、よく信じて
くれるよね。

怪しいって自覚
あるんですね。

しかし、
一般常識まで
忘却の彼方ですか。



我々エルフ族に、
嘘は通用しないんです。

エルフ族は多民族と
比べあらゆる面で
能力が劣っています。

生存戦略として、
真実を見抜く力が
進化し備わりました。



